



第92回中央メーテー 2021年5月1日（東京 代々木公園）

# 不屈

東京都本部  
「不屈」No.563付録  
東京版No.464  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034  
東京都文京区湯島2-7-8  
劳音お茶の水ビル1F  
電話 03(6240)0283  
FAX 03(6240)0284  
振替 00100-5-99628  
E-Mail tokyo-chian@bz04.plala.or.jp

## 東京都議選・総選挙の年に迎える都本部大会 同盟の活動を若い世代自身の課題に

**ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために**

二、治安維持法体制の復活に反対する。

二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であると認める  
こと。

三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

会長 吉田 万三

4月26日一年ぶりの全国中央常任理事会が、コロナ禍の中ということもあり、はじめてのオンラインとの併用で開かれました。多少不慣れなところもありましたが、①5月12日の国会請願に向けての最終盤での活動②コロナの為に全国大会を一年延期すること③今年行なわれる総選挙に同盟としてどう臨むのか、等々を意志統一しました。

その中でも目立ったのは、コロナという制約のある中での全国各地の活動な活動でした。とりわけ北海道・千葉をはじめ、東京の東村山・世田谷・八王子・荒川などでも次々と伊藤千代子の映画製作に向けて上映運動が開始され、藤田廣登氏の講演会や上映実行委員会発足などが進められ、それが会員拡大にもつながっています。今まで同盟を知らなかつた人が次々と参加してきていることは、支部活動の大切さや多くの人の行動・体験の共有の重要性を示しています。

現在、皆自公政権はコロナ対策ではその無能ぶりをさらす一方で、デジタル監視法案や重要土地等規制強化法案、さらにはコロナ対策の非常事態宣言などを口実にした改憲議論を進めようとしています。典型的な慘事便乗型の政治です。私たちが取り組む「治安維持法体制の復活に反対する」という同盟の課題は、決して若い世代にお手伝いを頼むようなものではなく、コロナ後の社会を監視社会にしてはならないという、若い世代にとっても切実で現実的な課題であることを強調しなくてはなりません。

今年は東京都議選、総選挙など重要な政治決戦の年です。たたかいの中、都本部大会を迎えるようではありませんか。



安田徳太郎 (1898-1983年)  
1953年 (Wikipediaより)

使館にいる私の友人が肺炎で危篤

40年初めに宮城から「ドイツ大

ゲが尾崎秀実や宮城与徳らの協力を得て諜報活動を行ないそれをソ連に送っていたとし、対米英戦争に突入する直前にゾルゲ、尾崎ら

（ゾルゲ事件で懲役8年の実刑判決）から、宮城が「コミニンテルン関係の人らしい」と聞いていたが、

あくまで「医師と患者」の関係としてつき合い、諜報活動に関わったという認識はなかった。

40年初めに宮城から「ドイツ大

防保安法、治安維持法、軍機保護法違反などの罪名で起訴され、44年11月に死刑が執行された。この弾圧事件で5人が獄死し、1人が保釈後もなく死亡した。

安田はゾルゲや尾崎とは面識がなかつたが、ゾルゲの協力者の一人で、後に未決拘留中に獄死した宮城与徳とは時々意見交換する関係にあつた。宮城は沖縄出身の画家。33年まで米国で反戦活動をして帰国、その後日本で反戦のための情報活動をしていた。

宮城が安田医院に「喀血した」と言つて訪れたのは35年（昭和10）の初めのことだった。安田は、妹の夫である高倉テルや久津見房子

（ゾルゲ事件で高橋与助という拷問・暴力での取り調べを受け体調を崩し、東京拘置所に移された。43年6月に治安維持法違反で起訴され7月に釈放された。44年3月、安田に懲役2年執行猶予5年の判決が下された。）

今年はゾルゲ事件から80年。「事件」の研究が進み、1950年代巷間に流布され、現在件像は今、大きく修正されている

が、これについては他日に稿を改めて書いてみたい。

（おわり）



【読者からの投稿歓迎】

当たり前と思つてならぬ日に三度

この街を生まれ故郷にアゲハチョウ

荒川区 風間 秀子

実のない風呂敷ばかりスガ総理

中野区 中嶋 育雄

寄席通り笑い免疫上げてくる

練馬区 足立区 高橋 陽子

五輪よりワクチン接種の民の声

八王子 清水 邦治

夫の咳背に八十路を謳歌する

荒川区 馬籠由美子

戦前回帰デジタル庁に子ども庁

豊島区 藤本 増美

空に轟音地には陥没世界都市

新宿区 阿部 俊雄

川 柳

植竹団扇選

が逮捕され  
た。ゾルゲ

もらえないか」と請われ処方薬を渡した。数日後、宮城に「おかげで全快した」とお礼を言われたが、

その「私の友人」とはゾルゲのことだつたと、「事件」が明らかになつてから安田は知つた。

宮城、尾崎、ゾルゲが相次いで検挙されたのは41年10月で、司法省がゾルゲ事件について発表したのが42年5月、安田が検挙されたのはその直後だつた。安田は青山署で高橋与助という拷問・暴力で有名な特高警部によって殴る蹴るの取り調べを受け体調を崩し、東京拘置所に移された。43年6月に

治安維持法違反で起訴され7月に釈放された。44年3月、安田に懲役2年執行猶予5年の判決が下された。

これほど後進国と思い知る

豊島区 高橋 陽子